

生成 AI 特許業務支援サービス「サマリア (Summaria)」

評価レポート

優れている点・今後の動向・賢い利用方法

2026 年 10 月 17 日時点の公開情報に基づく調査 |

Claude Opus 5.5

凡例：本文は出典に基づく事実を記し、筆者の分析・推測には「[分析]」を付した。上付き番号は文末の参考文献に対応する。

1. 結論 (エグゼクティブサマリー)

サマリアは、読解・分類・調査から拒絶対応・無効化書面・明細書作成までを一つの SaaS で扱える、国内実務特化の「特許実務ワークベンチ」である。^[1]法人向けのコーポレートプランは年契約で月 2.5 万円（税抜）からと、機能の幅に比べて安価である^[2]。ただし、母集団の網羅性を担保する特許 DB や、可視化・指標による戦略分析を主眼とする製品ではない。

- **優れている点**：①弁理士が経営・監修し、校閲記録付き Word 出力や記載要件違反チェックなど国内の権利化実務に深く対応している^{[3][1]}、②機能追加の頻度が高い（2026 年 1～8 月で 170 項目を更新）^[4]、③価格対機能比が高い^[2]。
- **今後の動向**：2026 年 9 月に MCP 対応^[5]と、拒絶理由通知書に由来する「類語シソーラス拡張」^[6]を投入し、汎用 AI と専門 DB をつなぐ方向へ軸足を移しつつある。同社は競合への法的措置にも積極的で、Patentfield 社との特許権侵害訴訟は 2026 年 4 月に全件終了し^[7]、エムニ社への不正競争防止法訴訟は係属中である^[8]。
- **賢い使い方**：MCP を含む全機能を 3 週間無料で試せ、自動で有料化されない^[2]。この期間に、正解が分かっている自社の過去案件を使って再現率と査読件数を自ら測る。公称の「再現率 100%」は正解 26 件・3 分野の自社検証である^[6]。
- **料金の読み方**：「月 8,000 円～」は個人向け最下位（ミニマム）プランの年契約価格である^[4]。「全ての機能」を利用できると明記されているのは法人向けのコーポレートプラン（年契約で月 2.5 万円、月契約で月 3 万円）である^[2]。

- **[分析]** Patentfield を使う組織では、置き換えではなく「Patentfield で母集団作成・可視化 → サマリアで精読・観点評価・書面ドラフト」という併用が最も合理的である。

2. 製品・提供元の概要

項目	内容
提供元	パテント・インテグレーション株式会社（東京都千代田区九段南 1-5-6 リそな九段ビル 5 階） ^[5]
設立・資本金	2002 年 6 月設立、資本金 900 万円、未上場 ^[5]
代表	大瀬佳之（代表取締役 CEO・弁理士、2007 年登録、JDLA E 資格保有）。東京大学大学院博士課程中退。セイコーエプソン知的財産本部、豊田中央研究所知的財産部門を経て現職（メーカー知財約 5 年、企業研究所約 8 年） ^[9]
技術顧問・顧問	技術顧問：角淵由英氏（弁理士法人レクシード・テック、弁理士）、川上成年氏（知財デザイン、弁理士）。顧問弁理士：河部康弘氏 ^[3]
開発経緯	2023 年 4 月 提供開始 ^[9] → 2024 年 5 月 拒絶対応支援ワークフロー（当時 Claude 3 Opus を採用） ^[10] → 2025 年 12 月 調査支援機能 ^[11] → 2026 年 2 月 無効化書面の作成支援 ^[12] → 2026 年 9 月 MCP ^[5]
規模	導入実績 211 社（2026 年 9 月時点）、収録特許 1 億 2,000 万件超（2026 年 7 月時点） ^[4]
受賞	第 37 回中小企業優秀新技術・新製品賞 ソフトウェア部門 優良賞（2025 年 4 月）、第 4 回 IP BASE AWARD エコシステム部門 奨励賞（2023 年 2 月、特許庁主催） ^{[13][3]}
保有特許	特許第 7542812 号、第 7539094 号、第 7493195 号ほか ^[3] 。2025 年 12 月時点で生成 AI 関連の保有特許は 12 件（出願 23 件）としている ^[11]

表 1 提供元とサービスの概要

[分析] 導入社数は、2026 年 8 月 20 日のリリースでは「150 社以上」^[14]、公式サイトでは「211 社」^[4]と表記が分かれる。算定基準（契約社数か、トライアルを含むか）は商談時に確認したい。また、同社リリース末尾の受賞歴に「2025 年 第 27 回」との記載がある^[6]が、受賞時のリリースでは「第 37 回」であり^[13]、誤記とみられる。

3. 機能の整理

公式の機能リスト^[1]を中心に、用途別に整理する。対応言語は日本語・英語・中国語・韓国語・ドイツ語・フランス語の 6 言語である^[1]。

区分	主な機能
読解・可視化	自由指示（個別査読）、複数文書対比、図面マークアップ、カスタム・クレームチャート、属否判定クレームチャート（製品仕様 10 件まで）、請求項マトリクス ^[1]

区分	主な機能
大量処理・分類・分析	一括指示（対象を最大 12,000 件に拡張） ^[4] 、査読支援ツール、分類支援（分類展開・分類付与・分類構築ツール）、クラスタリング、用語統制、レポート機能、AI 定量分析・AI 定性分析、発明評価支援 ^[1]
調査	調査支援ツール（検索式を自動で作成し、最大 50 個を提案） ^[11] 、検索式による集合作成、クエリ改善ツール、定期監視（SDI）、ノイズスクリーニング ^[1] 、類語シソーラス拡張（審査官の認定事例を利用、類似事例を最大 15 件表示） ^[15]
権利化・係争	拒絶支援ワークフロー（拒絶理由通知のほか ISR・EESR 等も読み込み可） ^[10] 、意見書案・補正書案、記載要件違反チェック、無効審判請求書案・異議申立書案・刊行物等提出書案（校閲記録付き Word 出力） ^[12] 、提案書作成支援、明細書作成支援 ^[1]
連携	サマリア MCP（特許検索、本文・請求項・書誌・図面の取得、番号照合、分類コードの説明） ^[5] 。外部サービス連携：審査官ラボ ^[16] 、root ip クラウド ^[17]

表 2 サマリアの主な機能

調査支援ツールは、①調査観点の作成、②キーワード要素、③予備検索式、④適合性評価とサンプル特許の抽出、⑤分類要素、⑥統合検索式と検索集合、⑦スクリーニング（記載評価・属否評価）の 7 段階で進む^[18]。

MCP は現時点では参照専用で、AI アプリ側での指示はサマリアの指示数を消費しない。同社は、定型処理や大量件数の処理はサマリア本体、条件を変えながらの検索や特定 1 件の深掘りは MCP という役割分担を想定している^[5]。MCP の同時接続は契約アカウント数までで本体のログインとは別にカウントされ、メンバー管理機能を契約するとメンバー数分利用できる^[2]。一方、外部システムから呼び出す公開 API は、一次情報では確認できなかった。

主な機能追加（2025 年 12 月～2026 年 10 月）

- 2025 年 12 月：調査支援機能（あわせて基本特許 3 件を取得）^[11]
- 2026 年 1～2 月：審査官ラボ連携^[16]、root ip クラウド連携^[17]、無効化書面の作成支援^[12]
- 2026 年 3～6 月：一括指示の対象を最大 12,000 件に拡張^[4]、弁理士法対応の強化（利用規約改定、注意喚起・ダウンロード前確認）^[9]
- 2026 年 9 月：サマリア MCP、類語シソーラス拡張^{[15][5]}
- 2026 年 10 月：日本の書誌・経過情報の収録、レポート機能の改良^[19]、PowerPoint での文書一覧作成、審査経過の包袋情報への対応^[20]

[分析] サマリアの「検索」は、母集団作成を自動化する補助機能として理解するのが妥当である。2023 年時点の解説では特許検索機能を持たないと説明されていた^[21]が、調査支援機能の追加で検索式

による集合作用が可能になった。それでも、母集団の網羅性を担保する検索 DB としては、引き続き Patentfield 側を主に使うべきである。

4. 料金

プラン	対象	年契約（月額換算）	月契約	指示数／30 日	契約単位
ミニマム	個人	8,000 円	未確認	400 回	ユーザ
ビジネス	個人	15,000 円	未確認	1,000 回	ユーザ
コーポレート	法人・組織	25,000 円	30,000 円	2,000 回	同時アクセス数

表 3 料金プラン（税抜。個人プランは^[4]、コーポレートは^[2]による）

- **コーポレート**：「サマリアの全ての機能」を利用できると明記されている。1 アカウントを複数人で共有でき、同時ログインは契約数まで（超えると先にログインしていた人がログアウトされる）^[2]。
- **メンバー管理機能**（個別 ID、MCP のメンバー数分の利用）：10 人まで月 1.8 万円、20 人まで 3.2 万円、50 人まで 6.4 万円、100 人まで 9.8 万円、100 人超は 1 人 980 円。料金例として、20 名・5 アカウントで月 15.7 万円が示されている^[2]。
- **追加指示数**：2,000 回 3 万円、1,000 回 1.8 万円、400 回 1 万円（追加分のみの購入は不可）^[2]。
- **月契約の最低期間**：請求書払いは 3 か月、カード払いは 1 か月^[2]。
- **有償オプション**：IP アドレス制限、SSO (SAML)、自社契約 AI エンドポイント（ローカル LLM の構築も相談可）、監査ログ。料金は個別案内^[2]。

[分析] 個人プランで使える機能の範囲は、料金ページの個人向けタブが取得できず確認できなかった。MCP のリリースは「コーポレイトライセンスまたはビジネスライセンス」で追加費用なしとし^[5]、2024 年の拒絶対応支援ワークフローも「ビジネス」以上で利用可能としていた^[10]。個人ビジネスプランで必要な機能を使えるかは、契約前に書面で確認したい。

5. 性能・実績

5.1 特許検索競技大会の過去問検証（2026 年 9 月 10 日公表）

- **対象**：2024 年度特許検索競技大会アドバンストコースの過去問。電気・機械・化学医薬の 3 分野で、正解は計 26 件（4 件／8 件／14 件）^[6]。

- **方法**：各問題文をそのまま入力し、検索式の拡張に「類語シソーラス拡張」（拒絶理由通知書 10 万件以上から、審査官が「相当する」と認定した用語ペアを抽出）を適用。生成した集合に AI の 1 次スクリーニングをかけ、人手による調整はなしとしている^[6]。
- **結果**：検索集合の段階で 26 件すべてを捕捉し、スクリーニング後は上位 30 件で 3 分野とも再現率 100%に到達した。2026 年 2 月の第 1 弾検証^[17]では、上位 100 件でも機械 87.5%・化学医薬 85.7%にとどまっており、確認件数は 1/3 以下になったとしている^[6]。
- **時間削減**：1 件 3 分と仮定し、上位 100 件（約 5 時間）から上位 30 件（約 1.5 時間）へ約 7 割削減と試算している^[6]。
- **同社が明記する限界**：3 分野・正解 26 件で統計的有意性を主張する規模ではないこと、母集団の総件数は未取得であること、拒絶理由通知書の蓄積が薄い分野で同様の効果が得られるかは判断できないこと^[6]。

[分析] 第三者による検証はない（自社検証）。過去問は公開済みであり、正解公報が審査経過で引用されている場合、拒絶理由通知書由来の辞書が評価を有利にする要因となっていないかは検証されていない。実力の目安にはなるが、導入判断の根拠とするなら自社データでの再検証が必須である。

5.2 導入事例・評判

- **カヤバ**：分類支援で用途・課題などの観点別に特許をタグ付けし、英語・中国語の特許も同様に扱う。IP ランドスケープの下準備の負担が減り、人手のタグ付けとの比較で業務に使える精度だったとしている^[22]。
- **弁理士法人 IPX**：中間対応での英語・中国語文献の確認時間を短縮し、引用文献の精査や拒絶対応支援ワークフローに活用している^[23]。
- **ライトハウス国際特許事務所**：海外文献の読み込み工数を 80%程度削減したとしている（比較の基準は記載なし）^[24]。
- **その他**：導入実績ページに企業ロゴを掲載^[25]。2025 年 4 月時点のリリースでは、パナソニック、HOYA、ザック国際特許事務所、きのか特許事務所などの利用を挙げ、自社アンケートで 83%以上が読解効率の向上を実感、94%以上が推奨意向と発表している^[13]。
- **専門家の言及**：角淵由英氏は、上位概念のクレームと下位概念の製品仕様（箸と箸置き の例）の対応を正しく判定したと評価しつつ、AI の結果を鵜呑みにはできないとも述べている^[26]（同氏は現在、同社の技術顧問）。2026 知財・情報フェアでは、きのか特許事務所の室伏千恵子氏や、リ

コーテクノリサーチの桜井珠里氏（「項目指示機能」で重要度を付与した数千件規模のスクリーニング事例）が講演した^[14]。

[分析] 独立した第三者による定量比較や批判的なユーザーレビューは、今回の調査範囲ではほぼ見当たらなかった。目に入る評判の多くはベンダー主催の場（ユーザ会・フェア講演・リリース・導入事例）経由であり、選択バイアスがあると見るべきである。

6. セキュリティ・情報管理

確認できた事項

- 入力データは同社が管理する AWS 上のデータベースに保存される。通信は TLS、保存データは AES 等で暗号化し、AWS WAF や Amazon GuardDuty で不正アクセス対策を行う。二要素認証に対応し、SSO は有償オプション^[4]。
- 2025 年 1 月に ISO/IEC 27001 (ISMS) の認証を取得^[4]。入力情報は AI サービス側の学習に利用されないとしている^{[4][27]}。
- 指示文と文書の一部は、マイクロソフト・OpenAI・Amazon Web Services・Anthropic 等の API へ送信される^[27]。2026 年 10 月にも Claude Sonnet 5.5、Claude Haiku 5.5、GPT-6.1 Sol が選択肢に追加された^{[19][20]}。
- 未出願の明細書を読み込ませても新規性を喪失しないと説明している^[27]。
- 利用規約は、弁理士法第 75 条違反などを解約事由として定めている（第 13 条第 1 項第 10 号）^{[28][9]}。

未確認・要確認の事項

- AWS のリージョン（国内保存か）、データ保持期間・削除ポリシー、LLM 事業者側のデータ保持（ゼロデータリテンションの可否）は、公開情報では確認できなかった。
- 利用規約は保守運用のためのデータ監視・分析を留保している（第 23 条第 4 項）^[28]。FAQ の「弊社側も閲覧できない」趣旨の説明^[27]との整合は、セキュリティ審査で確認すべきである。

[分析] 社外の LLM（米国事業者を含む）へ送信される以上、新規性喪失の問題とは別に、社内規程上の機密区分や越境移転の扱いを判断する必要がある。最も機密度の高い案件では、有償の「自社契約 AI エンドポイント」の利用を検討したい。

7. 競合との比較での位置づけ

観点	サマリア	Patentfield AIR	Tokkyo.Ai	Biz Cruncher	PatSnap Eureka
主軸	読解・観点評価・ 書面ドラフト	自社 DB 上の母集団への生成 AI 一括処理	社内資料を取り込む自律調査 ^[29]	パテントスコアによる定量・戦略分析	グローバル DB + AI エージェント
料金	法人：月 2.5 万円～ ^[2]	オプション月 3 万円～（本体の Mini/Corp プラン契約が別途必要） ^[30]	1ID 月 3.5 万円とされる ^[29] （公式価格ページは今回取得できず）	本体は料金表公開（年契約・税抜）、AI 機能は料金非掲載 ^[31]	Pro \$400/月～、Enterprise は要問い合わせ ^[32]
権利化業務	拒絶対応・無効化書面・明細書まで対応	対応なし ^[29]	明細書・拒絶理由対応あり ^[29]	対応なし ^[29]	明細書作成・拒絶理由対応（米欧中） ^[29]
IP ランドスケープ	簡易（レポート・AI 定量分析）	強い（マップ連携）	ランドスケープ自動生成は予定 ^[29]	強い（スコア指標）	強い
MCP	公式提供（参照専用） ^[5]	API + MCP の構築事例を公開 ^[33]	未確認	未確認	公式 MCP 連携を公開 ^[34]
日本語・国内実務	高い	高い	高い	高い	英語中心

表 4 主要競合との比較（「主軸」「強弱」の評価は筆者による）

2026 年 10 月 14 日改訂の 6 製品比較では、サマリアは 15 観点の合計で 39 点（45 点満点）と最高点であり、調査・権利化の 3 観点で満点を得ている^[29]。

- **[分析] 強み**：日本の権利化実務に特化した深さ（意見書・補正書・無効審判請求書の校閲付き Word 出力、記載要件違反チェック）、価格対機能比、更新の速さ。
- **[分析] 弱み**：可視化・統計・指標や、母集団の網羅性を担保する DB 機能では専門の Patentfield・Biz Cruncher に劣る。グローバル DB の網羅性やリーガルステータスの精度について、公開された比較データはない。

8. 今後の動向

8.1 公式ロードマップ

2026 年 8 月 20 日のリリースは、①MCP 対応、②拒絶理由通知書に基づく用語辞書による調査強化、③日英対訳表示の 3 機能を予告した^[14]。①②は 9 月にリリース済みであり^[15]、③は 10 月 17 日時点で

確認できなかった。同社は今後、発明者の業務支援と各種サービスとの連携を広げる方針を示している^[5]。

直近の情報源としては、11 月 11 日のサマリア MCP ウェビナー、11 月 19 日のアップデート共有ウェビナー、12 月 11 日の第 5 回サマリアユーザ会などが予定されている^[4]。

8.2 訴訟・法務の動き

- **対エムニ（不正競争防止法）**：同社は 2026 年 9 月 14 日、株式会社エムニを相手取り東京地裁に訴訟を提起したと公表した。問題としたのは「AI 特許ロケット」の広告にあった「外注時と比較して 99.9% のコスト削減」「業界破壊の低価格」との表示で、差止めと損害賠償を求めている^[8]。その後の経過やエムニ側の公式な反論は、10 月 17 日時点で確認できなかった。帰趨は未確定である。
- **対 Patentfield（特許権侵害）**：東京地裁に係属した令和 6 年（ワ）の計 6 件は、2026 年 4 月 17 日、第 70565 号・第 70566 号事件で民事調停法 17 条に基づく調停に代わる決定が確定し、残る 4 件も取り下げられて全件終了した。決定の内容は公表されていない^{[7][35]}。
- **[分析]** 業界全体で、根拠を示さない「〇%削減」型の訴求は控えられ、公称値の開示が厳しくなる方向に働きうる。これはユーザーにとってはプラスである。他方、同社は「再現率 100%」という強い数値を自ら掲げており^[6]、自社の表示にも同じ基準での根拠開示が求められる立場になった。競合への積極的な訴訟姿勢は、ベンダー選定時のレピュテーション要因として織り込んでおくべきである。利用企業への直接の法的リスクは限定的と考えられる。

8.3 市場全体の動きとサマリアへの影響

- **[分析] MCP・エージェント化**：PatSnap は Claude 向けの MCP 連携を打ち出し^[34]、Patentfield も API+MCP で知財 AI エージェントを構築する事例を公開している^[33]。「汎用 AI+専門 DB」が標準形になりつつあり、UI の差は薄れ、DB の品質・独自データ（審査官認定の語彙、包袋情報）・ワークフローの深さが勝負所になる。サマリアの類語シソーラス拡張や包袋情報の収録は、この流れに沿う。
- **[分析] 基盤モデルの世代交代**：新モデルの追加が速く^{[19][20]}、精度は改善するが、同じ処理でも出力が変わりうる。モデルの固定やプロンプトの記録による再現性の担保が運用課題になる。
- **[分析] 弁理士法**：同社はグレーゾーン解消制度による確認を 2023 年から進め、弁理士の適切な監督・関与のもとで AI が支援することは問題ないとの整理を示している^[9]。ただし非弁行為の線

引きは個別事案で判断され、法的に確定していない。出力書面の最終責任は弁理士・担当者が負う運用を前提とすべきである。

9. 賢い利用方法

9.1 業務別の使い方と人間のチェックポイント

業務	推奨フロー	人間が必ず確認する点
先行技術調査 (出願前)	提案書・請求項 → 調査支援ツールで観点作成・検索式（複数案） → 記載評価スクリーニング → 上位を精読	観点分解の妥当性、分類コードの妥当性、下位の取りこぼし（下位 30~100 件をサンプル精読）
無効資料調査	Patentfield で広めの母集団 → 記載評価・カスタム・クレームチャート → 無効審判請求書案	引用箇所（段落番号）の实在、構成要件の分節、組み合わせの動機付けは人が構成
FTO（侵害予防）	製品仕様をクエリ改善ツールで整形 → ノイズスクリーニング → 属否評価 → 属否判定クレームチャート	均等論・用語解釈・審査経過禁反言は人が判断。生死・ファミリーは商用 DB で再確認
中間処理	拒絶支援ワークフロー → 応答方針（複数案） → 意見書・補正書案（校閲付き Word）	補正の根拠記載（新規事項）、審査官認定の誤読、主張の一貫性。弁理士がレビュー
IP ランドスケープ	Patentfield で母集団・マップ → 分類展開・付与 → AI 定量・定性分析で仮説出し	分類定義の妥当性（サンプルで人手との一致率を測定）、AI 考察の過剰な一般化
技術動向ウォッチ	検索式 SDI（週次）＋一括要約を研究者へ配信。または研究者が MCP で社内 AI から照会	検索式の定期見直し、重要案件のエスカレーション基準

表 5 業務別の推奨フロー（筆者の提案）

9.2 プラン選び

- **個人（弁理士・サーチャー）**：読解・要約が中心ならビジネス（月 1.5 万円）^[4]。調査支援・拒絶支援・MCP を確実に使うならコーポレート 1 アカウント（月 2.5 万円）が無難^[2]。
- **小規模知財部（～10 名）**：コーポレート 2~3 アカウント＋メンバー管理（10 人枠で月 1.8 万円）^[2]。監査と ID 管理の観点から、メンバー管理は事実上必須である。
- **大企業知財部**：知財部の利用に合わせてアカウント数を決め、MCP を研究開発部門に開放する（メンバー管理 100 人枠で月 9.8 万円、超過分は 1 人 980 円）。SSO・IP 制限・監査ログ・自社 AI エンドポイントは個別見積もり^[2]。
- **特許事務所**：拒絶支援と明細書作成が投資対効果の中心。顧客の機密区分ごとに自社 AI エンドポイントの可否を判断する。

9.3 他ツールとの組み合わせ

- **Patentfield+サマリア**：母集団作成・統計・マップは Patentfield、精読・観点評価・書面化はサマリア。公報番号リストをサマリアの一括指示に流し、分類結果を Patentfield に戻して可視化するのが基本形。生成 AI によるラベリングを Patentfield AIR と重複して契約しないよう、役割分担を決める。
- **Biz Cruncher+サマリア**：パテントスコアで重要特許・重要企業を絞り、その上位をサマリアで精読する「量→質」の分業が有効。
- **MCP**：社内で契約している Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterprise から検索・取得・分類説明を行う。大量処理や定型処理は本体、アドホックな深掘りは MCP という公式の役割分担に従う^[5]。社内 AI 側のログ・保持設定も審査対象に含める。

9.4 PoC 設計・セキュリティ審査・効果測定

1. **PoC (3 週間トライアル内)**：正解既知の過去案件を 5~10 件（無効・FTO・先行技術を分野横断で）用意し、「上位 N 件での再現率」「査読件数」「所要時間」「誤判定の類型」を計測する。社内の熟練サーチャーとブラインドで比較する。
2. **書面系の評価**：過去の拒絶対応 3~5 件で意見書案を生成し、弁理士の修正量（校閲記録の差分）と所要時間を測る。
3. **セキュリティ審査の質問リスト**：AWS リージョン、保持・削除期間、LLM 事業者ごとのデータ保持とゼロデータリテンションの可否、再委託先、規約第 23 条第 4 項の運用、ISMS 認証の適用範囲、インシデント通知、モデル変更時の告知。
4. **効果測定 (KPI)**：1 件あたりの査読時間、外注調査費の削減額、中間応答のリードタイム、IPL 報告の作成時間、研究者の MCP 利用件数。四半期ごとにモデル更新の影響を再測定する。

9.5 限界・注意点

- **ハルシネーション**：段落番号・引用・数値は必ず原文で確認する。生成された書面は「素案」と位置づける。
- **検索漏れ**：キーワード×分類型の検索式は、語彙が薄い分野・新興分野・非特許文献に弱い。拒絶理由の蓄積が少ない分野でのシソーラス拡張の効果は未知数である（同社も明記）^[6]。
- **収録範囲**：国ごとの収録期間・タイムラグ・リーガルステータスの精度について公開比較はない。FTO では商用 DB で生死・ファミリーを確認する。

- 公称値の扱い：「再現率 100%」と「約 7 割削減」は小規模な自社検証と仮定に基づく試算^[6]、「80%削減」は個別事例^[24]、満足度は自社アンケート^[13]であり、いずれも第三者検証はない。
- ベンダーリスク：資本金 900 万円の中小企業であり^[5]、事業継続性、データのエクスポート手段、訴訟に伴う経営リソースの分散は確認事項である。

10. 未確認・アクセスできなかった情報

- 個人向けプランの機能範囲と月契約価格、日英対訳表示のリリース有無、AWS リージョン、データ保持期間、公開 API の有無。
- サマリアの更新履歴の一覧ページは JavaScript で描画されるため取得できず、2026 年 9 月中旬以降の個別機能（翻訳ツール等）は一次情報で確認できなかった。
- Tokkyo.Ai の公式価格ページは取得できなかった（表 4 は既存の比較資料による）。
- エムニ訴訟の提起後の経過、Genzo AI・AI Samurai 等との詳細な機能・価格比較。

参考文献

閲覧日はいずれも 2026 年 10 月 17 日。日付の記載がないページは日付を省略した。

- [1] パテント・インテグレーション「機能リスト | サマリア」. <https://summaria.jp/features>
- [2] パテント・インテグレーション「利用料金 | サマリア」. <https://summaria.jp/pricing>
- [3] パテント・インテグレーション「サマリアとは」. <https://summaria.jp/about>
- [4] パテント・インテグレーション「サマリア(Summaria) | 特許業務支援サービス」公式サイト. <https://summaria.jp/>
- [5] パテント・インテグレーション「生成 AI で特許業務を効率化する『サマリア』、MCP に対応。Claude・ChatGPT・Copilot・Gemini Enterprise からサマリアデータベースへ直接アクセス可能に」PR TIMES (2026 年 9 月 8 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000029.000086119.html>
- [6] パテント・インテグレーション「生成 AI による特許調査サービス『サマリア』、特許検索競技大会の過去問検証で電気／機械／化学・医薬の 3 分野で再現率 100%(上位 30 件)を達成」PR TIMES (2026 年 9 月 10 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000028.000086119.html>
- [7] Patentfield「パテント・インテグレーション株式会社と当社との間の特許権侵害訴訟の終了のお知らせ」PR TIMES (2026 年 4 月 17 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000062.000025380.html>
- [8] パテント・インテグレーション「株式会社エムニに対する不正競争防止法に基づく訴訟提起に関するお知らせ」PR TIMES (2026 年 9 月 15 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000030.000086119.html>
- [9] パテント・インテグレーション「特許読解支援 AI アシスタント『サマリア』、弁理士法対応を強化」PR TIMES

(2026 年 6 月 24 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000026.000086119.html>

- [10] パテント・インテグレーション「新機能『拒絶対応支援ワークフロー』をリリース」PR TIMES (2024 年 5 月 28 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000006.000086119.html>
- [11] パテント・インテグレーション「新機能『調査支援機能』のリリース・生成 AI を用いた特許調査、分類、情報解析に関する基本特許 3 件を新たに取得」PR TIMES (2025 年 12 月 24 日) .
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000015.000086119.html>
- [12] パテント・インテグレーション「業界初※、特許無効化書面の作成支援機能をリリース」PR TIMES (2026 年 2 月 20 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000019.000086119.html>
- [13] パテント・インテグレーション「特許読解 AI アシスタント『サマリア』が第 37 回『中小企業優秀新技術・新製品賞』のソフトウェア部門『優良賞』を受賞」PR TIMES (2025 年 4 月 16 日) .
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000011.000086119.html>
- [14] パテント・インテグレーション「パテント・インテグレーション、『2026 知財・情報フェア&コンファレンス』に出展」PR TIMES (2026 年 8 月 20 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000027.000086119.html>
- [15] パテント・インテグレーション「新機能『サマリア MCP』・『類語シソーラス拡張』機能のリリース」サマリアリリースノート (2026 年 9 月 1 日) . https://patent-i.com/summaria/manual/R_20260901
- [16] パテント・インテグレーション「弊社サービス『サマリア』と『審査官ラボ』がサービス連携」PR TIMES (2026 年 1 月 28 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000017.000086119.html>
- [17] パテント・インテグレーション「特許検索競技大会の問題に『サマリア』が挑戦。集合上位 100 件について 85% 以上の再現率を達成！／『root ip クラウド』とサービス連携を開始」PR TIMES (2026 年 2 月 12 日) .
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000018.000086119.html>
- [18] パテント・インテグレーション「調査支援ツール」サマリア利用マニュアル (2026 年 9 月 6 日最終更新) .
<https://patent-i.com/summaria/manual/research>
- [19] パテント・インテグレーション「サマリア リリースノート (2026 年 10 月 6 日)」(日本の書誌・経過情報の収録ほか) . https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261006
- [20] パテント・インテグレーション「サマリア リリースノート (2026 年 10 月 14 日)」(PowerPoint での文書一覧作成、包袋情報への対応ほか) . https://patent-i.com/summaria/manual/R_20261014
- [21] 大瀬佳之「FTO 調査 (侵害予防調査) を生成 AI で効率化 | スクリーニングの実務手順【サマリア】」note (2023 年 12 月 13 日) . https://note.com/ose_yosshy/n/ne7b83a6f187d
- [22] パテント・インテグレーション「サマリアが変革する IP ランドスケープ～効率的な分析で未来を切り開く」(カヤバ導入事例、2024 年 5 月 2 日更新) . https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240418
- [23] パテント・インテグレーション「中間応答対応にサマリアは活用可能！新機能『拒絶対応支援ワークフロー』で中間応答が加速！」(弁理士法人 IPX 導入事例、2024 年 6 月 6 日更新) . https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240514

- [24] パテント・インテグレーション「サマリアが変える特許文書読解の未来！海外文献では工数を 80%削減！」（ライトハウス国際特許事務所導入事例、2024 年 8 月 25 日更新）. https://patent-i.com/summaria/customer/I_20240809
- [25] パテント・インテグレーション「導入実績 | サマリア」. <https://summaria.jp/customers>
- [26] 角渕由英「サマリア (Summaria) を用いた侵害予防調査のスクリーニング」note (2023 年 10 月 22 日) . <https://note.com/tsunobuchi/n/n915359c4bee7>
- [27] パテント・インテグレーション「よくあるご質問(セキュリティ関連)」サマリア利用マニュアル. <https://patent-i.com/summaria/manual/faq>
- [28] パテント・インテグレーション「利用規約 | サマリア」（2023 年 10 月 1 日制定、2026 年 10 月 16 日最終改定）. <https://summaria.jp/terms>
- [29] 「生成 AI 特許分析ツール 6 製品の比較」役員報告資料（2026 年 10 月 13 日時点の公開情報に基づく調査、2026 年 10 月 14 日改訂、非公開）.
- [30] Patentfield「[Patentfield] 生成 AI を搭載した特許調査・分析オプションサービスを本日 7/1 リリース」PR TIMES (2024 年 7 月 1 日) . <https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000047.000025380.html>
- [31] パテント・リザルト「ご利用料金 | 特許分析のビズクランチャー (Biz Cruncher)」. <https://www.bizcruncher.com/price.html>
- [32] Patsnap「Plans & Pricing」Patsnap Eureka. <https://eureka.patsnap.com/pricing>
- [33] Patentfield「Patentfield API と MCP で作る『知財 AI エージェント』開発(2)」note (2026 年 2 月 25 日) . https://note.com/super_whale150/n/n3620fe9b593a
- [34] Patsnap「Patsnap MCP as a Patent Search Connector for Claude IP Legal Agents」（2026 年 5 月 22 日）. <https://www.patsnap.com/resources/blog/articles/open-patsnap-mcp-as-a-patent-search-connector-for-claude-ip-legal-agents/>
- [35] パテント・インテグレーション「Patentfield 株式会社と当社との間の特許権侵害訴訟の終了のお知らせ」（2026 年 4 月 17 日）. <https://patent-i.com/ja/news/88/>